

心豊かな世代が育つ

童話の里づくり

418

―シリーズ― あなたの人権・わたしの人権

『学び合い』

北山田小学校 4年

梅木 愛花

私は、昨年の四月に北山田小学校へ転入してきました。

次の日から、早速授業が始まりましたが、このクラスの授業は、今まで受けてきた授業とは全くちがうものでした。

それは、授業中にみんなが席を立て、いろいろな友だちと説明しあったり、聞きあったりするものです。

これまでは、隣の席の人とペアで話をすることはありましたが、立ちまわって話をしているのかと、とまどうともにもびっくりしてしまいました。

しかし、先生もみんなが立ち歩いていても気にしない様子で、「わか

らないことは、わからないって言わないと、誰も教えてくれないよ。」と、言うだけで、「困ったな。」と思いました。

この変な学習は、『学び合い』と呼んでいて、「みんなができる」とことを目標にしていました。

そのため、自分の聞きやすい人にならずねたり、困っている人に教えたりと、自分たちで考えて動いているようでした。

しかし、転入してきたばかりの私にとつて、まずだれに聞いたらいいいのかわからず、じつとすわって周りをキョロキョロ見て、様子をうかがうことしかできませんでした。

そんな状態が何日も続きましたが、しだいに

「わかる？大じょうぶ？」

「わからない時は、自分から動くといいよ。」

など声をかけられて、少しずつ自分

なりに動けるようになってきました。

そんなある日、友だちから

「愛花ちゃんの説明よくわかったよ。」

と、言われました。

すごうれしかったです。

また、最近では、

「説明が上手だね。」

と、まだ二、三回ですが言われることもあり、少しずつ自信がわいてきました。

この『学び合い』に慣れるのには

かなり時間がかかりましたが、できるようになったことがあります。

それは、自分から「教えて。」と言えるようになったことです。

今までの私だったら、「わからない」と言うのは、はずかしい気持ちの方が強くて、だまってそのままにしていました。

しかし、そうしていると、『学び合い』の時に友だちから注意されたら、自分も困ったりするので、「だまってそのままにしておく」ようなことはあまりしなくなりました。

次に、自分がちようせんしたいこととは、困っている友だちに、

「分かる？」

と、声をかけることです。

人と話すことが苦手な私にとつては、ハードルが高いですが、たくさん友だちから助けってもらっているので、自分のできることで、友だちを助けていきたいです。

*学年は、寄稿時のものです。

「教育」を英語でいうと「エディケーション」ですが、その語源となったラテン語の意味は、「学習者が本来持つ能力を最大限に引き出すこと」です。

持っている力を出し合い、素晴らしい学び合いができていますね。

この人権作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みなさんの投稿もお待ちしています。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを、二〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して(匿名可)、玖珠町教育委員会 社会教育課「あなたの人権・わたしの人権」までお届ください。

